

職能科通信 11号

2011年9月発行 <http://www.kanagawa-rehab.or.jp>

243-0121
神奈川県厚木市七沢 516
神奈川リハビリテーション病院
職能科
TEL&FAX 046-249-2575

知的障がいのリハビリテーション研修

今年の夏、8月17日・18日に「知的障害のリハビリテーション～適応行動へのアプローチ～」というテーマで、研修会が行われ、職能科も「就職の準備 進め方と必要な支援」「仕事に向けたグループ活動 分かりやすい支援の実例」というテーマで社会参加に向けた準備について講義しました。

「就職の準備 進め方と必要な支援」の内容として、就職の準備は、日常生活や社会生活で獲得した技能を活用・発展させる形で積み上げる階層構造を成し、就労移行支援事業等の訓練のみで整えるのではなく、キャリア教育により学童期から発達段階に応じて積み上げ、自立する力と共に、勤労感・職業観を身に付け、本人が社会参加をする実感をもちながら就職に臨む準備をすることが大切だということを説明しました。

本人の発達に合わせて支援をするには、本人・家族・支援者の、障がいの理解が必要で、障がいを知り、生活のしづらさを体験し、具体的な課題点に気づき、補償行動などの対策を身につけることが大切で、そうして得た障がいの理解・対策をもとに、「理解でき、取り組める、安心できる分かりやすい援助プログラム」を作って、新たな興味関心やモチベーションを高める良い循環を作ると、適応行動を引き出しながらステップアップしていくことが重要であると思います。

しかし、そこには本人が障がいを理解し、本人・家族・支援者が共有していく事の難しさや本人に合わせた援助プログラムを作っていくことの難しさがあります。



写真1 講義「就労への準備」



写真2 講義「支援の実例」

障がい特性により配慮が必要なのに、つい行ってしまう「適応的な行動を引き出せない声かけ」や「抽象的で分かりにくい指示」は、信頼関係に大きく影響してしまいます。そこで私たちが支援を行う上で大切なポイントとして実践している3つの援助のポイント①「分かりやすい環境づくりの支援」、②「分かりやすいコミュニケーションの支援」、③「やる気自信を引き出す支援」を視覚的に分かりやすいカードシステムや環境設定などの具体例を通し、紹介させて頂きました。

次に、こうした支援の組み立てを行う上で

の留意点や工夫のポイントを押さえた後に、「仕事に向けたグループ活動 分かりやすい支援の実例」というテーマで、当職能科で実際に行っているプログラムを効果と共に説明させて頂き、グループワークで経験していただきました。

当日は、小学校の教員の方も多くおいでになられていて、就職に向けた準備というテーマは、とても遠い将来の事のように考えていたが、準備を整えていくには学童期からの準備が必要という話の中で、身近なテーマとして考えることができたという感想を持たれた方もおられたようです。(山本 和夫)



写真3 グループワーク

在宅訓練でのピアサポートについて

在宅就業に向けた職業準備訓練として、職能科が行っている「在宅訓練」の中で取り入れている「ピアサポート」を紹介します。障がい当事者の先輩との交流(写真)を通し、次に示す効果が期待されます。

- 自立生活への意識が芽生える
- 社会参加への意欲が高まる
- 具体的なイメージをもつ

神奈川県総合リハビリテーションセンター周辺には、非常に有能なピアサポーターや団体・機関があり、プログラムにご協力いただいております。(松元 健)



写真4 SKYPE 使用



写真5 神奈川県頸損連絡会参加



写真6 在宅勤務者宅訪問



写真7 KILC(相談支援事業所)訪問

平成23年度就労支援の実績

職場内リハビリテーション実施人数	
2011年7月、8月の人数	8名
2011年4月からの累計人数	11名

就職・復職者の人数		
2011年7月、8月の就職・復職者	新規就労	—
	復職	7名
2011年4月からの累計	新規就労	4名
	復職	12名

高次脳機能バランスーの活用

高次脳機能障がいをお持ちの方の認知機能に働きかけるツールについてご紹介させていただきます。

受傷から入院までの日数が短縮していることもあって病識が不十分な方や気づき始めて不安になる方がおられます。こうした段階では簡単な作業を確実に行えない状況に直面して失敗経験を重ねることを避け、症状が重い状態からでも一步一步改善に向けて取り組めるような課題を設定することが求められます。向上意欲を持続させるポイントとしては、ポジティブフィードバックであること、一步一步前進していることが当事者にフィードバックされること、のためにはスモールステップの課題設定であること、同じテーマに繰り返し取り組めること、その際に新鮮に感じられるよう配慮された課題が望ましいと考えられます。

このような条件に合ったツールの一つとして、一般に市販されている「高次脳機能バランスー」を活用しています。構成している29のタスクの殆どはマウス操作で行います。顕著な半側空間無視があってパソコン未経験の方であってもマウス操作で取り組める課題が含まれています。説明文を読んで設問を理解することが難しい場合には、やって見せるなどの支援が必要になることもあります。

個々のタスクの結果はA～Dの4段階で示され、評価コメントはポジティブフィードバックで表示されます。レーダーチャートは目で見て実感でき、30日分のデータが表示される一覧表で経過を数字で把握することができ、自信づけとともに更なる向上へ意欲的な取り組みにつながっています。(伊藤 豊)



写真8 高次脳機能バランスー